

都市づくりの挑戦

7つの戦略に沿って、具体的な取組を分野横断的に進めていくことで、目指すべき都市像を実現していきます。

都民や民間事業者、区市町村など様々な関係主体との連携の下、積極果敢に都市づくりに挑戦する姿勢を明確にし、将来目指すべき状況を「都市づくりの挑戦」として示します。

世界の都市ランキング

▶ 1位が定位置

(現状)世界の都市総合力ランキング 3位(2016年)／一般財団法人森記念財団都市戦略研究所

東京は、交通・アクセスや環境など、都市づくりにおいていまだ世界と水をあけられている分野が存在します。「都市の成長がその国の成長を牽引する」と言われる今日、東京が持つ強みを伸ばし、様々な分野において世界をリードする都市の実現を目指していきます。

道路や鉄道のピーク時の混雑

▶ 解消

(現状)鉄道混雑率*180%以上 11区間(2016年)／国土交通省資料

道路の混雑時平均旅行速度* 18km/h(2015年)／全国道路・街路交通情勢調査(国土交通省)

鉄道の一部の区間では、混雑率が180%を超えるなど依然として混雑が発生しており、道路の混雑時平均旅行速度もマラソンランナーより遅いなど、都内の交通は更なる改善が求められています。

総合的な交通体系の構築や道路ネットワークの形成、自動運転技術の普及・活用、時差出勤やテレワークなどを推進し、円滑で快適な交通の実現を目指していきます。

木造住宅密集地域13,000ha

▶ 燃え広がりにゼロ

(現状)木造住宅密集地域を中心とした整備地域(約6,900ha)の不燃領域率* 62%(2016年)

／防災都市づくり推進計画(東京都)

木造住宅密集地域を中心に、震災時に特に甚大な被害が想定される地域を整備地域と指定して、改善を進めています。都内の全ての木造住宅密集地域(約13,000ha)において更なる改善を進め、燃え広がらないまちの実現を目指していきます。

都内の無電柱化

▶ 電柱をなくす

(現状)電柱本数 約75万本*(2014年)／東京都無電柱化推進計画(東京都)

都内の道路の無電柱化率は約5%であり、ロンドン・パリの100%と比較すると大きく差が開いています。

無電柱化の技術革新の進展等とともに、都、区市町村、関係事業者などが連携して取組を進めることで防災機能を向上させ、安全で歩きやすく、美しいまちの形成を目指していきます。

都市づくりの 7つの戦略

戦略 01

持続的な成長を生み、
活力にあふれる拠点を形成

戦略 02

人・モノ・情報の
自由自在な交流を実現

戦略 03

災害リスクと環境問題に
立ち向かう都市の構築

都民の生活満足度

▶ 70%以上

(現状) 都民の生活満足度* 54%(2016年) / 都民生活に関する世論調査(東京都)

都民が感じている生活満足度は、1970年代は70%前後でしたが、以降低下する傾向にあります。誰もがいきいきと暮らせる、活躍できる都市の実現を目指していきます。

公共交通の空白地域

▶ 解消

(現状) 公共交通空白地域*の人口 約40万人(2010年) / 東京都

公共交通空白地域において、高齢者や障害者など交通弱者の移動の対応が求められています。フィーダー交通、デマンド交通の導入、自動運転技術の活用などによる地域の公共交通の充実や、集約型の地域構造への再編を進めることで、快適に暮らせるまちの実現を目指していきます。

緑の総量

▶ 減らさない

(現状) みどり率* 50.5%(2013年) / 東京都

東京の緑は、公園・緑地が増えているものの、全体としては減少傾向にあります。今ある緑や農地を守るとともに、都市づくりの機会を捉えて新しい緑を生み出すなど、あらゆる場所で緑を感じられる都市の実現を目指していきます。

都民のスポーツ実施率

▶ 70%以上

(現状) 都民のスポーツ実施率* 56.3%(2016年)
/ 都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(東京都)

健康の維持・増進、地域コミュニティの活性化など、スポーツの力を都市づくりへ活用することが期待されています。スポーツを身近に楽しめるまちをつくることで、スポーツに親しむ人を増やし、にぎわいの創出など都市の魅力の向上につなげていきます。

特に解説が必要な語句について、末尾に「*」を付していますので、「都市づくりの挑戦 語句説明」(P.208)を参照してください。

戦略 04



あらゆる人々の
暮らしの場の提供

戦略 05



利便性の高い生活の実現と
多様なコミュニティの創出

戦略 06



四季折々の美しい緑と水を
編み込んだ都市の構築

戦略 07



芸術・文化・スポーツによる
新たな魅力を創出